

職場における命令・依頼表現

－ジェンダー的視点から見る－

小林美恵子

1 日本語における命令表現

日本語における命令形、明示的な禁止形「来い」「するな」などは通常「男性的表現」とされ、女性は「いらっしやい」などの「特別の敬語動詞」や「～なさい」のような敬語形を含む命令形以外は「まず、使わない」とされてきた。相手に行動を求める場合、女性的表現では「こっちへ来て下さる？」のような依頼の形が使われる。同じ依頼表現でも「～てくれ」「～てもらいたい」のような命令に近い意味合いを持つものは男性的表現とされる。(益岡・田窪1989、金水2003など)「～てくださる？」は疑問形式の依頼であり、可否は相手の意志や恩恵によるから、依頼としてはきわめて弱いものとなる。

相手に行動を求める表現としては「～て」「～てください」「～ていただけますか？」など、特に話者のジェンダーに偏らない「中立的」表現というべき語形もあるが、これらもほとんどはいわゆる「依頼形」である。

命令は上位の者から下位の者に向かってなされるのが普通であるから、このような日本語の命令表現のしくみは、女性が命令者として上位に立つことがまれであり、その場合にも女性は明示的な命令や禁止をすべきでなく、あくまでも相手を立て、その意志を優先すべきであるというジェンダー観の反映と見ることができる。実際に女性がほとんど家庭にあった過去の都市型生活では、女性の命令は母から子、初等教育での女性教師から児童・生徒へなど限られた関係においてのみ行われていたとも考えられよう。

しかし、女性が、いわば命令される立場としての補助的労働だけにでなく、さまざまな形で社会進出を果たしている現代において、「女性は命令すべきでない」などというジェンダー規範はもはや通用しない。女性のみで起業したり、女性が男性の上司として仕事をリードしたりなどという例はいくらでもある。ことに職務に関しては、いかに民主的で対等な人間関

係を持つ職場であっても必ずや命令・服従関係が存在し、他者に何か行動を起こさせるための表現は避け得ない。従来「命令表現」を持たなかった女性はこのような場合どのような表現を行うのか？ それは男性の命令表現とどう違うのか？あるいは男性の表現とどのように影響しあうのか？小論では、まず我々がイメージする命令表現のありようをTVドラマの台詞によって分析し、次に職場の自然談話資料を用いて実態を見ていくこととする。

2 命令表現のイメージ—TVドラマ『踊る大捜査線』における命令表現

『踊る大捜査線—湾岸警察署事件簿』は1997年1月～3月フジテレビで放映されたいわゆる「刑事ドラマ」である。その後、歳末特別警戒SP、秋の犯罪撲滅SPなどのスペシャル版が製作され、また2本の映画版も作られた人気番組である。刑事ドラマというと、職場としてはいささか特異かとも思われるが、指揮系統が縦割りではっきりしている警察という世界であれば、われわれのイメージする典型的な命令表現が現れやすいのではないかと考え、この資料を取り上げることとした。小論で分析対象としたのは全11回のうち最初の5回、発話のある台詞総数2460（最多回662、最少回369、平均492）であるが、このうち命令・依頼表現（「ごめんなさい」「いってらっしゃい」などの定型的な挨拶語を除く）は324（最多回91、最少回39、平均、65）、13.2%であった。実際に、これは後述するとおり、自然の談話資料よりずっと高い出現率である。

以下に、このドラマの主な登場人物4人（主人公青島俊作：30歳の新任刑事。恩田すみれ：27歳、女性刑事、青島の同僚。年齢は下だがキャリアでいえば先輩ということになる。室井慎次：34歳、警察庁首席監察官、青島の上司であるがライバル的な面も持つ。袴田健吾：48歳、刑事課長、青島の直属上司）の用いる命令・依頼表現を相手別に整理する（表1～4）。

(表1) 「青島」(30歳・新任刑事)の命令・依頼表現

	表現形式 / 相手	上司	同僚	部下	一般人	被疑者	合計
命 令	①動詞命令形				1	6	7
	②(動詞終止形+な(禁止)					4	4
	③名詞		1				1
	④動詞終止形(+こと・ように)				1		1
	⑤形容詞・形容動詞 連用形			3		1	4
依 頼	⑩～て/～ないで(終助詞)	2	7		3	3	15
	⑪～てくれ/ないでくれ		1				1
	⑫～てくれる↑/てくれない↓		2			1	3
	⑬～てください(ね)/ないで～	1	5	3	4		22
	⑭～てほしい(んだ)/ないで～		1				1
	⑮頼む(よ)					1	1
	⑯お願いします		2				2

(注)例:③「手錠!」④「行く・行くこと・行くように」⑤「早く」「静かに」など。
「一般人」は被疑者以外の警察外部の人である。保険勧誘員、殺人被害者の娘である若い女性など。表中↑は文末の上昇イントネーションを示す。(以下同じ)

(表2) 「恩田」(27歳・女性刑事)の命令・依頼表現

	表現形式 / 相手	上司	同僚	部下	一般人	被疑者	合計
命 令	①動詞命令形					1	1
	②動詞終止形+な(禁止)					1	1
	⑥～なさい	1	1			1	3
	⑨いらっしゃい					1	1
	③名詞				1		1
依 頼	④動詞終止形(+こと・ように)		1			2	3
	⑩～て/～ないで(終助詞)	1	1	4			15
	⑫～てくれる↑/てくれない↓		2				2
	⑰～てくれますか↑/ませんか↑	1			2		3
	⑬～てください(ね)/ないで～	1	1		1		3

(表3) 「室井」(34歳・本庁監察官)の命令・依頼表現

	表現形式 / 相手	上司	同僚	部下	一般人	被疑者	合計
命 令	①動詞命令形		2	9			11
	②動詞終止形+な(禁止)		1	5			6
	⑥～たまえ			2			2
	③名詞(+だ)		1				1
	⑦動詞連用形+ん(の)だ				2		2
依 頼	⑩～てくれ/ないでくれ		2	6			8
	⑬～てください(ね)/ないで～		5	3	1		9
	⑭～てほしい(んだ)/ないで～			2			2
	⑯～ていただきたい			1			1
	⑰お願いします		1				1

(注)「室井」は本庁の官僚で所轄署から見れば上司だが、年長の所轄署長、副署長などについては「同僚」として分類した。例:⑥「行きたまえ」⑦「行くんだ」など。

(表4) 「柁田」(48歳・刑事課長)の命令・依頼表現

	表現形式 / 相手	上司	同僚	部下	一般人	被疑者	合計
命 令	①動詞命令形		1	2			3
	②動詞終止形+な(禁止)			1			1
	⑥～たまえ			1			1
	⑧～なさい(よ)		1				1
	③名詞(+だ)				4		4
依 頼	④動詞終止形(+こと・ように)			2			2
	⑩～て/～ないで(終助詞)			1	3		13
	⑬～てください(ね)			1			1
	⑰お願いします		2				2

(注)「柁田」にのつての「同僚」には年齢は上だが職階は下である刑事などを含める。

年齢的にも地位的にも下位にある「青島」「恩田」は上司・同僚・それ以外の相手に対して比較的はつきりと命令・依頼表現の使い分けをしている。ことに「青島」は上司に対しては⑬「～てください」、同僚に対しては⑩「～て」形を中心とするさまざまな依頼表現を用い、緊迫した状況下などでは③「手錠！」⑤「冷静に！」などの命令表現を用いる。さらに被疑者の取り調べなどでは①「～しろ」②「～するな」という命令形・禁止形を比較的多く用いている。女性の「恩田」は上司に命令・依頼をする場面自体が少ないのだが、その場合は、やはり⑬「～てください」⑰「～てくれますか↑」などを用い、相手が同僚の場合は「青島」とほぼ同じような使用の傾向を示している。彼女は男性的表現とされた命令形・禁止形を含む種々の命令表現（①②③④）も用いているが、その相手は被疑者、特に万引きをした少年やひったくりをした若者（21歳）などである。一方、他の男性登場人物がほとんど用いない⑧「なさい」⑨「いらっしやい」など敬語を含む命令形の使用もあり、女性であるということがこのような語の使用に影響していると考えられる。

上司的立場にある「室井」「袴田」はどちらも部下に対して命令形、禁止形その他の命令表現（①②③⑥）を用いているが、2人の命令・依頼のしかたは対照的とも言える。「室井」は命令形①や禁止形②また依頼表現でも⑩「～てくれ」のような「男性的」かつ直接的な表現が多いが、同時に⑬「～てください」のような中立的で丁寧な語形も比較的多い。しかも、「青島」などと違い、このような語が同僚や部下相当の相手にも用いられている。実は「室井」は所轄署の刑事たちを監察する本庁の官僚である。刑事たちとの立場の違いや距離がこれらの命令・依頼のしかたには現れているのだろう。

一方、「袴田」の場合は①②③⑥のような命令形を使いはするものの、その数は比較的少なく、むしろ⑩「～て」の使用が突出している。この中には「～てよ」のように終助詞「よ」を伴うものもある。⑩は「青島」や「恩田」で同僚に対して多く用いられていることを考え合わせても、親しさの表象であると言えよう。「青島」「恩田」の直属の上司であるが、捜査の陣頭に立つというよりは部下を牽制したり、署長や副署長の意向と部

下の行動の間であたふたしたりというふうの設定されている「袴田」の性格や立場を反映しているのであろう。「室井」が比較的多用しており、男性的表現とされる⑩「～てくれ」という依頼形も1例も現れないし、他の登場人物の中では女性の「恩田」のみが使っていた⑧「～なさい」の使用も見られる。

このように見てくると、各登場人物の命令・依頼表現にその話者の性が反映しているのは確かであるが、それに加え話者の立場・性格などによって中立的な表現や反ジェンダー的な表現が選ばれる場合も多いと言えよう。

ところで、このドラマにはいわゆる「婦警」は何人か登場するが、残念ながら「恩田」より地位、年齢の高い女性が登場しない。女性管理職の不在は、このような警察物語におけるジェンダー観の現れとも見られよう。

2003年秋『踊る大捜査線 The Movie 2 レインボーブリッジを閉鎖せよ』（劇場版）が公開された。この映画には30代の女性管理官が登場し連続殺人事件捜査の指揮をとるが、この女性は「～なさい」という命令を連発し、「えらそうに・・・」と所轄署員の反発を買うという設定となっている。男性管理官のような「～しろ」「～てくれ」という発言は1例もないのだが、敬語を含む「～なさい」という形でさえ、女性からの命令は高圧性を感じさせるわけで、これはとりもなおさず、女性が命令的立場に立つことへの忌避を示すジェンダー観そのものの現れだと言えよう。

3 職場の自然談話資料に見られる命令・依頼表現

次に現代日本語研究会1997、現代日本語研究会2002（以下、それぞれ『女職』『男職』とする）に現れた命令・依頼表現について検討する。分析対象としたデータは次の通りである。

『女職』レコード（発話1文）数11233（総レコード数11421より「笑いのみ」「くしゃみ」など188を除く）、男性発話2329、女性発話8746、不明・多数発話158、うち命令・依頼表現と見られるレコード男性29、女性127、発話者不明1。

『男職』レコード数11054（総レコード数11099より「場面転換の説明のみ」「笑いのみ」「咳払い」など45を除く）、男性発話8071、女性発話2739、不明・多数発話244、うち命令・依頼表現と見られるレコード男性167、女

性29、不明3。両資料レコードを発話者の男女別に計数してみると、男性は10400レコード中命令・依頼表現196（1.88%）、女性は11485レコード中命令・依頼表現156（1.36%）ということになる。この資料は『女職』『男職』それぞれ約20の学校（大学・高校・小学校）・会社（生産会社・出版社など）・その他（販売業・バンド・研究所など）の職場の自然談話各30分程度、合計20時間程度を録音・データベース化したものである。自然談話に現れる命令・依頼の表現の割合はTVドラマのおよそ10分の1程度にすぎず、職場という環境であっても実際に命令や、依頼はそれほどの頻度で行われてはいないと言える。ちなみに中島1997・2002によれば『女職』『男職』の疑問表現はそれぞれ1177、1672である。これと比較しても命令や依頼という発話行為はきわめて少ないと言えよう。次にこれらの表現を発話者の男女別に整理する（表5）。

また、これらの表現を5種の語形別のタイプにわけて整理した（表6）。それぞれのタイプについて以下に特徴を述べる。

3.1 命令（禁止）の表現形式

表5中(1)～(6)は明示的な命令・禁止の表現である。このうち以下に例をあげる(1)～(3)のようなものは男性的表現とされてきた。

- (1) とりあえずやるから、やってから、もしそうゆう意見が出たんだったらバックしろよ一。（『男職』3197 男40歳→男37歳同僚・仕事）
- (2) (子どもに名前を)もしつけんなら違う字にしな。（『女職』8888 女33歳→女35歳同僚・雑談）
- (3) 力でやるなよ一。（『男職』9894 男42歳→男34歳同僚・雑談）

本資料ではこのような例は6件のみと少ないが、発話者は5例が男性で、女性の発話は(2)としてあげた1例のみであった。この例は30代の女性の同僚どうしの雑談の中で、一方の話者の姉にまもなく生まれる子どもの名付けに言及したもので、かなり親しい者どうしの会話と言える。

(表5) 職場の自然談話における命令・依頼表現(発話者性による)

表現形式		男性	対総数 比(%)	女性	対総数 比(%)	合計	対総数 比(%)
命 令	(1) 動詞命令形(+よ)	2	1.02	0	0.00	2	0.56
	(2) 動詞連用形(+な)	1	0.51	1	0.64	2	0.56
	(3) 動詞終止形+な(禁止)(よ)	2	1.02	0	0.00	*3	0.84
	(4) ~なさい	0	0.00	2	1.28	2	0.56
	(5) お~ください(「をください」含む)	5	2.55	4	2.56	9	2.53
	(6) お~くださいませ	1	0.51	2	1.28	3	0.84
	(7) 動詞終止形(+こと・ように)	2	1.02	0	0.00	2	0.56
	合計	13	6.63	9	5.77	23	6.46
直 接 依 頼 形 式	(8) ~て/~ないで	31	15.82	48	30.77	*80	22.47
	(9) ~て/~ないで(よ・ね)	14	7.14	8	5.13	22	6.18
	(10) ~てくれ	1	0.51	0	0.00	1	0.28
	(11) ~てください	40	20.41	24	15.38	64	17.98
	(12) ~てください(よ・ね)	7	3.57	4	2.56	11	3.09
	(13) ~てくれる↑	4	2.04	1	0.64	5	1.40
	(14) ~てくれませんか(ね)↑	0	0.00	1	0.64	1	0.28
	(15) ~てもらえる↑	1	0.51	0	0.00	1	0.28
	(16) ~てもらえます↑	2	1.02	0	0.00	2	0.56
	(17) ~ていただける(のね)↑	1	0.51	1	0.64	2	0.56
	(18) ~ていただけるんです(かね)↑	1	0.51	2	1.28	3	0.84
	(19) ~ていただけます(か)↑	4	2.04	5	3.21	9	2.53
	(20) ~いただけませんか(か)↑	0	0.00	1	0.64	1	0.28
	(21) お願いできますか↑	2	1.02	0	0.00	2	0.56
	(22) ~てくれれば(ありがたい)	3	1.53	1	0.64	4	1.12
	(23) ~てくだされば(ありがたい)	0	0.00	1	0.64	1	0.28
	(24) ~てほしい	2	1.02	0	0.00	2	0.56
	(25) ~てほしいんだけど	1	0.51	0	0.00	1	0.28
	(26) ~てほしいです(ね)	1	0.51	0	0.00	1	0.28
	(27) ~てほしいなど(思います)	0	0.00	1	0.64	1	0.28
	(28) ~てもらって	0	0.00	1	0.64	1	0.28
(29) ~てもらえば(ありがたい)	1	0.51	0	0.00	1	0.28	
(30) ~てもらおうと(思って)	1	0.51	0	0.00	1	0.28	
(31) ~てちょうだい	0	0.00	2	1.28	*3	0.84	
(32) ~ていただいて	2	1.02	2	1.28	4	1.12	
(33) ~ていただきたい	1	0.51	1	0.64	2	0.56	
(34) ~ていただきたい(ので・のですが)	2	1.02	4	2.56	6	1.69	
(35) ~ていただきたいと(いう・思う)	5	2.55	3	1.92	8	2.25	
(36) ~ていただければ(ありがたい)	9	4.59	3	1.92	12	3.37	
(37) ~ていただけると(ありがたい)	0	0.00	2	1.28	2	0.56	
(38) ~ていただけたら(と思う)	0	0.00	1	0.64	1	0.28	
(39) お願い	0	0.00	1	0.64	1	0.28	
(40) お願い(なんですが)	1	0.51	0	0.00	1	0.28	
(41) お願いします	40	20.41	20	12.82	*61	17.13	
(42) お願いしたい(んですが・と)	0	0.00	4	2.56	4	1.12	
(43) お願いいたします	5	2.55	5	3.21	10	2.81	
(44) 頼む(よ)	1	0.51	0	0.00	1	0.28	
	合計	183	93.37	147	94.23	333	93.54
命令・依頼表現総計		196	100.00	156	100.00	356	100.00

(注) 合計欄に*を付したものは、発話者の性別が不明なもの各1例ずつを追加して合計数を出した。総計の+4も同様である。

(表6) 語形による 命令・依頼表現

	発話者性			場面		相手年代		丁寧さ	
	男性	女性	合計	仕事	雑談	上	同下	敬体	常体
①「ください」型を除く命令形 (1)(2)(3)(4)(7)	7	3	*11	7	4	1	7	2	9
	3.57	1.92	3.09	63.64	36.36	12.50	87.50	18.18	81.82
②～て(んで)(ないで) (8)(9)	45	56	*102	60	42	30	35	2	100
	22.96	35.90	28.65	58.82	41.18	46.15	53.85	1.96	98.04
③～ください (5)(6)(11)(12)	53	35	88	75	13	30	27	88	0
	27.04	22.44	24.72	85.23	14.77	52.63	47.37	100.0	0.00
④～いただく(17) (18)(19)(20)(32)(33) (34)(35)(36)(37)(38)	25	25	50	48	2	18	9	46	4
	12.76	16.03	14.04	96.00	4.00	66.67	33.33	92.00	8.00
⑤～お願い～(21)(39) (40)(41)(42)(43)	48	30	*79	74	5	19	21	77	2
	24.49	19.23	22.19	93.67	6.33	47.50	52.50	97.47	2.53
⑥その他 ～くれる(10)(13)(14)(22) ～もらう(15)(16)(28)(29)(30) ～てほしい(24)(25)(26)(27) ちょうだい(31)頼む(44)	18	7	*26	22	4	4	16	6	20
	9.18	4.49	7.30	84.62	15.38	20.00	80.00	23.08	76.92
合計	196	156	356	286	70	102	115	221	135
	100.0	100.0	100.0	80.34	19.66	47.00	53.00	62.08	37.92

(注)・上段は実例数、下段は%である。%は、「発話者性」については各形の男女それぞれの合計数に対して、その形が占める割合を算出し、「場面」「相手年代」「丁寧さ」についてはその形の出現数に対するそれぞれの割合を算出した。
 ・*を付したものは表5と同じく発話者の性別不明なものを1例ずつ加算したものである。
 ・③「～ください」については「お～ください」のような命令形を含む。
 ・相手年代については356例中わかっているものは217例(60.96%)である。
 ・「丁寧さ」については、この語を含むレコード(発話1文)について「です」「ます」などの敬語を含む(敬体)か、そうではない(常体)かによって分けた。なお③「ください」についてはこの語自体が敬語形文末であるので、全ての例を「敬体」としてある。

(4)～(6)は敬語を含む命令で、中立的表現と言ってよいだろう。このうち(4)「～なさい」の2例はいずれも女性の教師が生徒の高校生に言ったもの。(5)「お～ください」(6)「お～くださいませ」は男性にも女性にも用いられている。

(4) 思ってること、じゃあ、はっきり言いなさいね。(『女職』4187
 女37歳→男高校生生徒・仕事)

(5) はい、急ぎのご用でしたらあの一、携帯電話のほうにご連絡くだ

さい。(『男職』7542 男25歳→男40代顧客・仕事)

(6) よろしくお伝えくださいませ。(『女職』2826 女43歳→?電話・仕事)

(7) は非明示的命令といわれる形で「揭示や文書に使われる形」(益岡・田窪1989)とされる。その意味では中立的表現であろうが、実際に口頭で発せられると高圧的なイメージは強いだろう。本資料では「～こと」「～ように」がそれぞれ1例ずつ男性によってのみ発話されている。

(7) それからあとは、荷札を必ずつけること。(『男職』3587 男46歳→複数同僚・仕事)

命令形の使用自体は命令・依頼表現356例中23例(6.46%)を占めるにすぎないが、男性的とされた表現については、やはりそのほとんどを男性が使っている。なお依頼表現のうち男性的表現とされる(10)「～てくれ」(24)「～てほしい」などにも表5のとおり、同様のことが言える。ただしこれらの形式も「～てくれ」1例、「～てほしい」2例と、きわめて少ない。

(10) やめてくれ(『男職』10430 男30歳→女22歳同僚・雑談)

(24) (前文略)あの一、ただ、ま一、できるだけ早く持つてくことは考えてほしい。(『男職』3586 男46歳→複数同僚・仕事)

3.2 依頼の表現形式

表5(8)以下は依頼表現であるが、職場で他者に何らかの行動を求める発話の93～4%がこの形の表現である。特に、②「～て/～ないで」③「～てください」が多いことはTVドラマの表現と同じだが、表6によればTVドラマには出てこない④「いただく」⑤「お願いする」を含む語形が職場では男女を問わず多く用いられていることがわかる。使用率が2桁の%を示しているのはこの4つの語形であり、これらの総計は命令・依頼表現の89.6%を占めている。職場の依頼のほとんどはこの4つの表現形式で行われていると言っても過言ではない。(②～⑤は表6中の数字に対応。以下同じ)

4つの形式のうち②「～て／～ないで」は他の3形と違い、比較的女性に多く、雑談の場で用いられる傾向も大きい。表6のとおり命令・依頼表現は雑談の場で用いられた例は20%弱に過ぎず、80%以上は雑談以外の仕事に関する発話において用いられている。われわれは不要に他者を自分の意志によって動かすという行為はしないが、仕事の上では避け得ない場合が多いのであろうことをこの数字は示唆している。「～て／～ないで」も仕事上の談話で用いられることは多いのだが、同時に比較的気軽な雑談ではこの語による依頼が多いことがわかる。丁寧さから見てもこの形式は他の3形式と違い、常体の文中で用いられることが圧倒的に多く、この傾向は①「『ください』型を除く命令形」にむしろ近い。男性話者が「～しろ」「～するな」を使うような場で女性は「～て／～ないで」を使うのであろうと考えられる。但し、男性話者においてもこの形のほうが命令形よりも一般的であることを表6の男性話者の数値(22.96%対3.57%)は示している。

「お待ちください」のような命令形を含む③「～(て)ください」型の命令・依頼形については、表6に見るとおり男女ともに比較的よく使い、雑談にも多少現れるが、仕事上の会話に多く、相手年代を選ばず、この語自体が敬語形なので発話全体の丁寧度も比較的高い。これはTVドラマで上司や同僚さらに部下にもややあらたまった場で最もよく使われている依頼形であることと一致している。

④「いただく」形は表5・6(17)～(38)まで11種と、最も多くのバリエーションをもって用いられている。TVドラマには現れないが、現代の職場での代表的な依頼形の一つと言える。間接依頼形式であり、直接依頼形式である「くださる」よりはやや相手への強制の度合いは弱いと言える。男女とも用いるが、3形の中では比較的女性が使う割合が高く、仕事に関する発話に圧倒的に多く、相手年代でも比較的上位者に用いられる割合が高い。もっともこの点については、資料全体に相手の年代が不明であったり複数話者に対する発話が多いため、明確な傾向とは言い難い。「いただける↑」「いただきたい。」と言いつつ4例を除いてすべては敬体の発話である。

なお、従来の区分では「いただける↑」は女性的表現、「いただきたい。」はどちらかと言えば男性的表現であろうが、本資料ではどちらもそれぞれ男性・女性の用例が1例ずつ見られ、この点でも男女差はない。

(17) スパゲティ、ちょっといただける↑ (『女職』5680 男38歳→女42歳同僚・雑談)

(33) (前略) [名字] 先生に幅広に一、こう、見ていただきたい。

(『女職』1632 女45歳?→女55歳同僚・仕事)

また、「いただける」は「くれる」「もらえる」「お願いできる」などととも表5(13)～(21)のような疑問形での依頼表現のバリエーションも持つ。このような疑問形での依頼は「いただきたい」「～てくれ」「もらいたい」「お願いしたい」のような形より丁寧な表現になる。このような形式は本資料では男性に15例(7.65%)女性に11例(7.05%)見られる。差は小さいが丁寧な語形を男性のほうが多く使っていることが注目される。なおこのような疑問形の依頼では否定の疑問形のほうが肯定の疑問形より丁寧になると言われるが、本資料では「くれませんか↑」「いただけませんか↑」各1例が見られたのみである。

⑤「お願い～」は「お願いします」「お願いいたします」の形で用いられている例がほとんどである。これについては「いただく」とは逆に、どちらかといえば男性のほうがよく使う傾向が見られる。仕事の場で用いられる割合、発話文の丁寧さなどについては「いただく」と同様な傾向である。相手の年代については年上にも年下にも用いられ、あまり相手を選ばないということか。

以上から③「ください」④「いただく」⑤「お願い～」の3形は多少の傾向差はあっても、男女いずれにも用いられ、どちらかという仕事に関する発話で、相手の年代なども選ばない、丁寧な中立的表現として用いられていることがわかる。

4 まとめ

自然談話の場合、従来いわゆる男性専用形式とされたような命令形・禁止形、また「～てくれ」のような依頼形が職場で用いられるのはごく限られた場合に過ぎない。この場合にそれらの形式を用いるのはほとんど男性である、という意味においては、命令表現に関する旧来的なジェンダー意識は今も存在しているということが可能であろう。

しかし、男性であれば必ずそのような命令表現を用いるというわけではもちろんない。おおかたの男性は職場で他者に何らかの行動をしてほしいという意図を示すのに「～てください」「～ていただきたいです(が)」「お願いします」「～て」のような中立的かつ丁寧な形式を用い、それぞれの語の使用の傾向について多少の男女差は見られるにしても、選定される表現形式全体についていえば、女性の場合とまったく変わるところはない。「～て」という形が女性ほどには用いられないこと、疑問形式の依頼形の多用などからいえば、男性のほうが、女性よりもむしろ丁寧な依頼を行う傾向にあるとさえも言えよう。TVドラマの女性には見られた「～なさい」のような形式も実際の談話においてはごく限られた関係でしか用いられず、他に女性だけが用いられると言われるような表現形式も見られない。上司として命令をするのが女性であれ男性であれ、命令・依頼の言語形式の差はなく、中立的な丁寧な表現形式が用いられていると考えてよい。

職場における女性上司は、より「女性的」な丁寧な表現形式を用いることにより男性を含む社員間でのステータスを高め維持しようという考え方があがるが、このような考え方は実際の命令・依頼表現の実態によって否定されているというべきであろう。

男女のことばの接近については、女性のことばの男性化、男性のことばの女性化などが報告されるが、命令・依頼形式について言えば、丁寧な語形による中立化、脱ジェンダー化が見られることになる。ただし、このような中立化、脱ジェンダー化は必ずしも近年の変化であると断言できないように思われる。

TVドラマでは命令形が比較的多く用いられ、話者の立場や相手によって、時に話者のジェンダーに反する表現なども見られるものの、おおむね

男性は男性的とされる命令・依頼表現を用い、女性は「～なさい」「いらっしゃい」のような敬語形やその他の依頼表現を用いるという意味において従来のジェンダー規範のわくを大きくはずれるものではない。これがわれわれの抱く命令・依頼表現のイメージであるとすれば、イメージと一般的な職場の実際には大きな乖離があると言えよう。(職場が警察であればドラマのイメージにもう少し近い可能性はあるが)ただしこのような乖離は今に始まったことではないだろう。過去において自然談話の資料はほとんど見られないのであるから、現実職場でどのような命令・依頼表現が行われたのかを知ることはむずかしい。われわれはドラマや小説などの台詞においてのみ命令・依頼形式をイメージしてきたのかもしれない。その場合に喧嘩とか罵倒以外には使われることのあまりない「特殊な」語形である命令形が、一般的な語形としてイメージ化された可能性もある。そのイメージ化には命令者＝男性というジェンダー観が反映したとも考えられるのである。

資料・参考文献

- 君塚良一(2003)『踊る大捜査線・湾岸警察事件簿／テレビ作品全脚本収録』キネマ旬報社
- 現代日本語研究会(1997)『女性のことば・職場編』ひつじ書房
- 現代日本語研究会(2002)『男性のことば・職場編』ひつじ書房
- 益岡隆志・田窪行則(1989)『基礎日本語文法』くろしお出版
- 金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 中島悦子(1997)「疑問表現の様相」(現代日本語研究会1997所収)
- 中島悦子(2002)「職場の男性の疑問表現」(現代日本語研究会2002所収)

(付記)

以上は、2003年12月6日お茶の水女子大学国語国文学会において行った発表「職場の談話に見られるジェンダー規範——命令・依頼の表現形式を中心に」をもとに書き起こしたものである。

(こばやし みえこ)